

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1175300225		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム北本		
所在地	埼玉県北本市中丸4-118-2		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	平成30年10月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

愛の家グループホーム北本では、ご入居者様の自立を最大限サポートできるように心がけています。ご入居者様の「できること」「できないこと」を見極め、スタッフは極力手を出さずに見守りを行うようにしています。また、ご入居者様の得意なことや好きなことを出来る限りスタッフと一緒に行うことで、ご入居者様の「人の役にたててうれしい」という気持ちを引き出していけるよう日々工夫しています。スタッフの教育の場として、毎月1階勉強会を実施しています。各ユニットで担当を1名決め、計3名で勉強会の企画から開催までを行っています。スタッフは自ら考えることを通じて、ケアに役立つ知識や技術を身に付けることができます。毎月1回、各ユニットでの行事に加え、レクリエーション委員会による全体レクリエーションを行い、異なるユニット間での入居者様同士が交流を図れるようにしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は開設15年目の3ユニットからなるグループホームである。利用者ができる事を尊重して、一日一日を大切に笑顔で過ごしてもらえるように、利用者の気持ちに寄り添った支援をしている。職員は個人の目標を持ち、自分は何を目標、目的として介護に携わっているのかを常に考えながらケアに励んでいる。地域密着型の施設として地域との関係をより密接にするために、積極的に地域との関係作りに取り組んでいる。管理者は社会福祉協議会主催の認知症に関する講習会の講師を引き受けたり、老人会との交流を深めるなど、運営推進会議での意見や提案も参考にしながら実践している。毎月発行の「えがお新聞」には月ごとの行事内容やお知らせと共に、利用者の生活、身体状況の詳しい報告や家族から許可を得た利用者の写真が掲載されており、家族に郵送されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際に、運営理念とクレドを唱和している。唱和することで、各スタッフは認知症介護の基本に立ち返り、心を新たにしてケアに望むことができるようにしている。	法人理念の他に事業所独自の理念とフロア毎のスローガンを設定している。毎日朝礼で理念を唱和し、新しい一日をあらためて実感している。職員は目標を持った介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中丸地区で行われる年1回の納涼祭に参加し、一緒に盆踊りを踊ったり、会話を楽しんだりしている。また、地域の七夕祭りや、社会福祉協議会でのクリスマス会などにも参加をしている。	自治会に加入し、地域の盆踊りや納涼祭に参加している。老人会とのカラオケ大会開催や踊り、音楽のボランティアも受け入れている。毎年地域の小学2年生が「街体験」に訪れて利用者と一緒に楽しく交流している。	地域との関係を深めるためにはどうしたらよいか？地域との協力関係を築くために模索を重ねてきた。事業所の熱意を地域の方々知ってもらい、より一層の協力を得るために継続して取り組むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、ホーム内のご入居者様の様子、行事報告、勉強会の様子などを記した新聞を作成し、ご家族や市役所、運営推進会議委員などに配布をしている。また、不定期ではあるが、地域住民向けに認知症講習会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にて、行事報告、事故報告、その他取り組みについて報告をしている。特に、事故報告については会議参加者にも助言を求めることもあり、その内容をユニット会議で周知し、サービス向上に努めている。	2か月に一度、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員の参加を得て開催されている。事業所からは利用者の様子や行事、勉強会の報告をし、出席者からは地域の情報提供やアドバイスを受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢介護課の担当者や、地域包括支援センターの方とは、運営推進会議や地域密着型サービス連絡部会等を通じてホーム運営上の意見をいただいている。疑問、質問は率先して相談している。	市の窓口へ出向き、担当者と協力関係を深めている。地域密着型サービス連絡会では担当者から情報や意見を得ている。市役所内で開催される作品展に利用者の切り絵やペットボトルアートを出品している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回程度、身体拘束と虐待に関する勉強会を開催している。身体拘束、不適切なケアが行われないように日々のケアをチェックし、フロアを越えて情報交換を行うようにしている。	年4回、身体拘束と虐待についての勉強会を行っている。常に利用者の立場で考え、人権を傷つけ生きる希望を失わせかねない行為とは何かを話し合っている。たとえ家族からの転倒予防の拘束希望でも絶対に拘束は行わないと説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックシートを用いて、虐待、不適切なケアが行われていないか日々のケアを振り返るようにしている。(年4回)。このシートは毎回異なるスタッフに記入をしてもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は本社会議にて、成年後見制度について学ぶ機会があったが、現場のスタッフにまで内容を伝えることはできなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族と一緒に契約書類の読み合わせを行っている。随時、質問の有無を聞き、その場で不明点を解決するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には「何か気になることはありますか？」と常に聞くようにしている。また、年に1回のご家族様アンケートの結果をユニットに周知し、ホーム全体で改善点に取り組むようにしている。	家族の面会時には意見や要望を聞いている。「ラジオ体操をもっとやってほしい」という要望から各フロアで実施したところ、はじめは乗り気でなかった少数の利用者も継続することで気持ちの変化が見られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回程度、管理者とスタッフの個人面談を実施している。面談の場で、意見や悩みを聞き、早急に改善できるものについては、できるだけ速く改善できるよう努めている。また年に1回、法人で職員満足度アンケートを実施している。	個人面談やユニット会議において職員の意見や提案を聞いている。物品購入や行事、食事、レクリエーションについての提案を、職員自ら計画し、実行することで利用者へのサービス向上に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社前経験年数・勤続年数・資格手当・自己評価等、個人の努力が反映されるシステムになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については、対象スタッフはできるだけ参加するよう協力体制が整っている。外部研修については、基本的に個人判断に任せているが、必要性が高い研修は本人納得の上で参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度地域密着型サービス事業所連絡部会にて、情報交換をしている。また、毎年1回作品展覧会を実施しており、その準備を通じて他事業所職員と交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にかならず本人と面談をし、日常生活で困っていることを聞くようになっている。また、入居後の生活がスムーズになされるよう、本人の生活暦や趣味なども聞くようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居見学時に、ご家族の困っていることや不安なことを、丁寧に聴くようになっている。必要に応じて、自宅での訪問も行い、限りなく入居前の不安を取り除くようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、管理者の3者で入居前にかならず面談をするようになっている。本人にとってどのような支援が優先されるかを十分に話し合うようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身でできることはやっていただき、それぞれお得意なお手つだいをしていただく機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族様に要望を伺い、必要に応じて次回のケアプランに取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様のご友人が面会に見えたときは、ご本人の前向きな様子を伝え、施設に対するイメージがプラスになるように努めている。	家族の了解を得た知人の来訪を歓迎している。家族と共に自宅へ帰ったり、一泊旅行へ出かける時には「薬を忘れずに」と支援をしている。コンビニや薬局への買い物は安全に配慮しながら職員が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが仲介役となり、話題を提供している。レクリエーションを通じて、交流を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、病院や施設への面会をご家族の了解のもと、行わせていただいている。また、葬儀に会葬に伺うこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を随時伺うようにしている。また、月1回のケアカンファレンスを開催し、日々の生活・過去の生活歴をもとに、その入居者様にあったケアをユニット内で検討している。	職員は利用者の生活歴や好みを周知し、思いや意向は直接本人から聞くようにしている。利用者のその時の気持ちを大切にしている。表現が困難な方には情報を基に話しかけて思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴についての用紙を家族に配布し、ご家族に記入をしていただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りなど、他の場面でも細かくスタッフ同士情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向をしっかりと理解できていない部分があるかもしれない。	居室担当者の原案を基にカンファレンスを行ない、利用者に寄り添い、家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。運動をさせたい、好きなことをしてほしいという家族の希望を計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや申し送りなど、気になることはできる限り早く情報交換するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1度様々な行事を企画したり、フロアでも毎月の食事会やお誕生日会などを行っている。地域のお祭りに参加したり、ドライブや買い物にも出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方を招いてカラオケを行ったり、地区のお祭りに参加をしたりして、地域の方との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご家族様のご希望を伺っている。途中からの変更も可能である。	内科は入居前からのかかりつけ医を受診する方もいる。月2回、内科訪問診療があり、歯科は希望者の診療が毎週行われている。週2回、看護師が訪問し、緊急時は24時間連絡可能で適切な指示が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡メモや随時の連絡を通じて、細かな状況報告、情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中でもできるだけ安心して生活していただけるよう、ホームで作成した入居者情報の提示および説明を行っている。また、随時面会に行き、本人の様子を確認することで、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の様子を見ながら、できるだけ早い段階で終末期ケアの方針をご家族様と相談するようにしている。ご家族様・医師の協力が十分に得られることを前提としたうえで、ホーム側の条件を提示し、話し合いのもと管理者が最終決定をしている。	家族には入居時に事業所としての指針を説明して了承を得ている。食事摂取が困難になったり医療行為が必要になった場合には医師、家族、現場の三者で話し合い、方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム内の勉強会を実施し、応急手当の方法を確認している。また、スタッフ間で止血の方法などを共有している。必要に応じて外部の講習会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのもと、定期的(年2回)に防災訓練を実施している。地域との関わりはほとんどできていない。	年2回、夜間想定1回、消防署員立ち合い1回の避難訓練を実施している。AEDを設置し備蓄品も確保している。今後は近隣の人々との交流を深めて防災面での協力体制を築いていきたいと考えている。	次回実施の火災訓練において、老人会の皆さんの参加を得て協力してもらう予定とのことである。共に消防署の講習を受けて防災の知識を高め、互いに協力し合う態勢が整うことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格などを考慮し、その方にあった声掛けをしている。	個人ファイルやパソコン内の個人情報の管理を徹底し、研修も行っている。職員の申し送り時は利用者のイニシャルや部屋番号を使用して他の人には分からないようにしている。羞恥心への配慮も重視している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日課のレクリエーションや散歩は、声掛けにて参加していただいているが、体調・気分に応じ、意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記37同様、レクリエーションや散歩は午前に行くことが多いが、希望に沿って午後行うこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪したり、希望によって染髪したり、男性の場合は、髭剃りをその都度行っている。化粧をしていただいているご入居者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳準備や食器洗いなど、無理のない範囲でお手伝いしていただいている。また、食事中はテレビを消し、ご入居者様の好みであった曲をかけている。	可能な方には皿洗いやテーブル拭きを手伝ってもらっている。行事食として敬老の日のお赤飯やお正月のおせち料理を味わってもらい、日常的には季節感のあるメニューで利用者に楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、毎食後食べた量を記録している。脱水にならないように、飲み物もこまめに提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをしている。ご自分で磨くことが難しいかたは、一部介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめにトイレの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄をなるべく心がけている。またできる限り自立できるように、昼は布の下着、夜のみりハビリパンツを使用するなど使い分けをすることもある。	排泄チェック表により利用者の排泄状況を把握している。なるべく可能な限りトイレ排泄を支援している。傾合いをみて声かけをする時には耳元でささやくようにして、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認が出来ていない方は、起床時に冷たい麦茶や牛乳を飲んでいただいたりしている。他にも散歩や運動レクの声掛けもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否がある場合などは、別の日に設定したり、時間をあけてお誘いし、なるべくご本人が納得したうえで入浴していただいている。	少なくとも週2回、午後の時間に入浴してもらっている。入浴チェック表を基に入ってもらい、拒否の方への声かけも工夫している。希望があれば同性介助にも応じ、菖蒲湯や柚子湯も楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子で傾眠されているときは、声掛けをしベッドで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は入居者様毎にファイルしており、いつでも参照できるようにしている。また、薬の種類が変更になった時は、連絡ノートにて周知し、様子観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節のおやつ、昔ながらのおやつを作るお手伝いをいただいている。また、雑巾縫いも行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日レクリエーションの時間に散歩にでかけたり、普段行けないような場所の時はなるべく1人でも多くの方に外出いただけるようにしている。ご家族の方と旅行に行かれることもあり、その際は準備の支援を行っている。	散歩好きな方が多く、さわやかな季節には毎日散歩に出かけている。前庭のベンチで外気浴を楽しむ方もいる。職員の車で買い物を一緒にしてもらったり、コンビニへお菓子を買に行くのに同行したりと日常的に外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にお連れした際には、好きな商品を選んでいただいている。支払いについても、可能な限り本人に行ってもらおうようにしてる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の携帯電話で、ご家族とご友人たちと楽しく会話をしている。ご本人宛に届いた手紙はご本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけ等で季節感を出している。温度、湿度計を設置し、空調や換気を行って居心地のよい環境にしている。	それぞれのフロアの利用者の性格を考慮して、フロアごとに利用者になじみやすい手作り作品で飾り付けをしている。リビングや廊下の広い空間は明るく清潔に保たれて居心地が良く、日中はリビングでくつろぐ利用者が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル、イスの配置は状況により席替え、位置替えなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、慣れ親しんだ家具や衣類を持ってきていただくようにしている。また、転倒の危険のないように、配置には十分注意を払っている。	備品のエアコン、照明、鏡付き洗面台以外は使い慣れた物を自由に持ち込んでもらっている。ベッド、タンス、椅子等の家具を安全に配置して、絵や写真を飾っている。床に畳を敷き、和布団使用の方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に合わせた目印や案内をしている。(ご自身の居室前に写真を貼るなど)また、日付は大きく表示している。		